

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2026年3月3日放送分 根岸／宮沢】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今回は愛宕大橋の南詰、越路の交差点からスタートです。
江戸時代以前の古い街道「東街道」と推定されるルートの一つを、広瀬川を下る方向に歩いて行きます。右手に大年寺山を見ながら、その麓に沿った大通りですね。
- 大年寺という山は、四代藩主・綱村公が同名の寺を開いた事からこう呼ばれるようになったもので、それまでは「茂ヶ崎」でした。
仙台城下7カ所の景勝地「仙台七崎」の一つとして知られていた場所です。
1696年の開基以来、歴代藩主の墓所となっており、四代・綱村以降、江戸で亡くなった藩主以外は大年寺に葬られています。
- コーナー65本目となる今月の辻標は、根岸交差点の南側です。
「根岸／宮沢」と刻まれています。こちら辺は江戸時代まで名取郡根岸村であり、いま仙台南高校がある場所には、かつて宮城県農業高校がありました。
明治18年、宮城農学校として現在の太白区根岸に開校した日本最古の農業学校です。
他にも、根岸には名取川の上流から水を引いた木流し堀があり、北の角五郎(現・青葉区)とならぶ仙台藩の木材集積地でした。
さらに、周辺の南東向きの斜面を利用して藩管理の茶畑も広がっていました。

- 辻標のもう片面には、宮沢と刻まれています。大年寺の寺守だった人物の苗字から、宮沢となったと伝えられます。

江戸時代の初め、新たに整備された奥州街道は宮沢の渡戸で広瀬川を越えていました。

後に少し下流、現在の広瀬橋の辺りに「長町橋」が架けられると、宮沢の渡戸は廃止となりました。

きっかけは、伊達政宗の副都心計画とも呼べる若林城の築城です。

- 宮沢架橋は、明治に入ってから。明治15年に簡素な木橋が架けられたのが最初です。

現在の宮沢橋は昭和30年の完成ですが、架け替え工事中。

今年9月に新しい橋が開通予定で、しばらくは新旧2本の橋が同時に見られる貴重なタイミングと言えるでしょう。

〈文・佐々木淳吾〉

